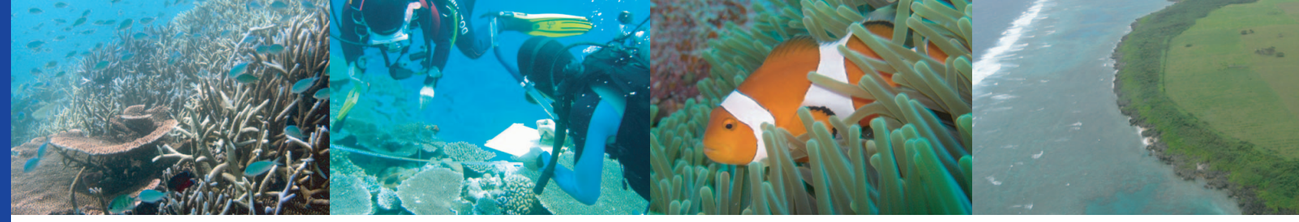
石西礁湖自然再生ニュースレター
2011.3 Vol.14

石西礁湖 自然再生

▲産卵場に集まるナミハタの群れ

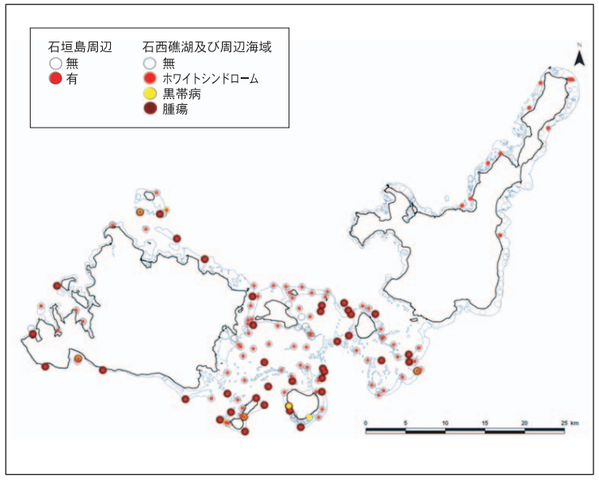


石西礁湖はいま シリーズ 14

サンゴの病気が拡がっています。

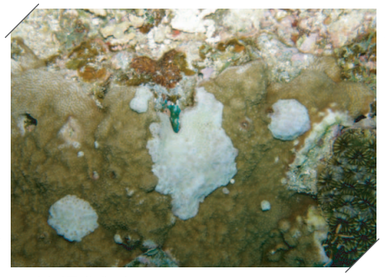
環境省が毎年実施している「広域モニタリング調査」によると、近年、石西礁湖及び西表島周辺のほとんどの調査地点で病気のサンゴが観察されるようになってきました。この調査で記録をとっているホワイトシンドロームや腫瘍（異常成長）、黒帯病の他、ブラウンバンドディジーズという病気に罹患したサンゴも広く見られています。

海外ではサンゴの病気がその地域のサンゴに大きな被害を与えたケースも報告されており、石西礁湖のサンゴにとっても脅威となる可能性があることから、現在詳細な調査を行っているところです。



▲石西礁湖周辺におけるサンゴの病気の分布（平成21年度環境省ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｻｲﾄ1000調査）

▲ホワイトシンドローム



▲腫瘍（異常成長）

▲ブラウンバンドディジーズ

ヨナラ水道におけるナミハタの禁漁区

鹿熊　信一郎
（八重山農林水産振興センター）

ナミハタ（方言名：サッコーミーバイ）は、非常に短い間の産卵期に、特定の産卵場に集まり、集中的に産卵することが知られています。このとき漁獲も集中し、価格が暴落することになります。このため、沖縄県水産海洋研究センター等が調査を行い、産卵期に産卵場を禁漁区とし、産卵群を守ることを八重山漁協に提案していました。

平成22年3月の八重山漁協・資源管理推進委員会で、ナミハタの資源管理が検討され、その後、電灯潜り部会での話し合いや理事会での協議を経て、試験的にナミハタの禁漁区を設定することになりました。

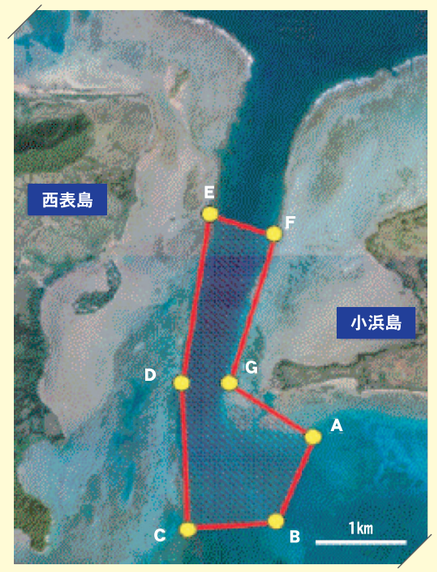
水温によっては一月ずれることもありますが、平成22年は5月6日を中心にして集中的に産卵することが予想されました。そこで、平成22年5月4日～8日の5日間、西表島と小浜島の間にあるヨナラ水道の約325ヘクタール【図1】を全魚種禁漁とすることに決定しました。

禁漁期間中、電灯潜り部会などが船を出して監視にあたりました。その結果、初日に遊漁船1隻が禁漁区内に入っていたことを除き、操業を行った船はありませんでした（この遊漁船は、禁漁区の外に出てもらいました）。八重山地域では、漁船に匹敵する数の遊漁船があるので、その対策は重要です。今回の資源管理は漁業者の自主規制なので、遊漁者には協力を求める形になります。このため、地元新聞に禁漁区の記事を載せてもらい、広報・普及に努めました。

今回の資源管理の取組は成功したと評価できます。
その理由は以下の通りです。

1）　ナミハタが予想どおり大きな産卵群を作りました（1週間前はほとんどいなかった雌が、高密度で集まっていました）。
2）　5月5日と6日の調査では、雌の腹は卵でパンパンに膨らんでいました【図2】。8日の調査では、高密度にいた場所でもナミハタはほとんど見られず、6日の夜を中心に集中的に産卵して、この海域を離れたと考えられます。
3）　平成21年の集中産卵期には、市場への供給過剰で価格が暴落し、漁協が500円/kgで買い支えることもできませんでしたが、今年はそれほど価格が下がりませんでした（700円/kg）。

真の成果は、今回大量に産卵された卵が孵化し、成長して4～5年後に漁獲される、あるいは産卵することですが、これは流れや水温、餌生物などの環境に左右されます。したがって、資源管理は継続する必要があります。



▲【図1】ヨナラ水道の禁漁区

▲【図2】卵をもち腹が膨らんだナミハタの群れ

編集
発行
石西礁湖自然再生協議会運営事務局
環境省　那覇自然環境事務所　内閣府　沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課
【住　所】〒907-0011　沖縄県石垣市八島町2－27　環境省石垣自然保護官事務所内
【電　話】0980-82-4768　【ＦＡＸ】0980-82-0279
【E-mail】okironc@coremoc.go.jp　【自然再生ホームページ】http://sekiseisyouko.com

前田さん お帰りなさいセレモニー

今回の協議会では、議事に入る前に協議会委員の(株)シー・テクニコ(リゾート・アイランド・カヤマ)に所属する前田博さんからヨットによる世界一周航海の報告がありました。約２年間の航海中に撮影したマダガスカル島、ガラパゴス諸島、タヒチ諸島などのスライド写真を使い、訪問先で目にした世界の自然やごみ対策などについて写真を交えながら報告がありました。

Sailing Yacht "Yaima" Challenge Around the World

さらに詳しく知りたい方はWebサイトをご覧ください。

http://yaimaworld.web.fc2.com/

前田さんのヨット「Yaima号」の
世界一周航海のごく一部をご紹介します!!

モルジブにて。
広大な環礁のためゴミは見なかった。
潮の出入りが早い。

カリブ海、セント・マーチン島。
どこにでもある子供の海遊び場 !!!

南アフリカ、ケープタウンの
テーブルマウンテンをバックに。

オーストラリア、グレートバリアリーフ
の係留ブイ。コンセプトは自然にやさしく
そして楽しむこと。

パラオにて。
一周1時間の小島で20個体を見つけたが
島の人は驚いていなかった。

第13回
石西礁湖自然再生協議会

協議会新体制への提案
～より実働的な体制への組織改変を目指して～

平成23年1月28(金)に、沖縄県八重山合同庁舎にて、「第14回石西礁湖自然再生協議会」を開催しました。協議会には、事務局を含め計61名のみなさんの出席がありました。

協議会では、生活・利用に関する検討部会から竹富南航路における安全確保のためのルール検討状況の報告、基金運営委員会から石西礁湖サンゴ礁基金の運営状況の報告があったほか、協議会の体制や新たなロゴマークの作成等について、アンケート結果を踏まえた議論が行われ、今後協議会を地域主導のより実働的な組織に改変していくことが合意されました。ロゴマークについては、部会を中心に検討を継続していくこととなりました。

また、協議会委員の石垣市観光協会から、平成23年3月5日から一週間を「石垣島サンゴウィーク」として設定し、サンゴ礁の保全・普及等を目的に、様々なエコイベントやビーチクリーニングなどの活動を行う予定であることが発表されました。さらに、協議会の会長である琉球大学の土屋教授から、環境省の生物多様性センターが実施しているモニタリングサイト１０００の調査の解析結果として、石西礁湖におけるサンゴ礁被度の変遷について発表されました。委員から変遷に関する情報提供を得ながら、今後、サンゴの種類や地形等を踏まえた解析を行っていきたいとの話がありました。

▲協議会の全体風景

▲質疑応答の様子

▲サンゴ礁基金助成による陸域対策の発表

▲石西礁湖のサンゴ被度の変遷についての発表